

ASSET事業第2期(平成25年度)の実績について

平成28年3月

地球環境局

地球温暖化対策課市場メカニズム室

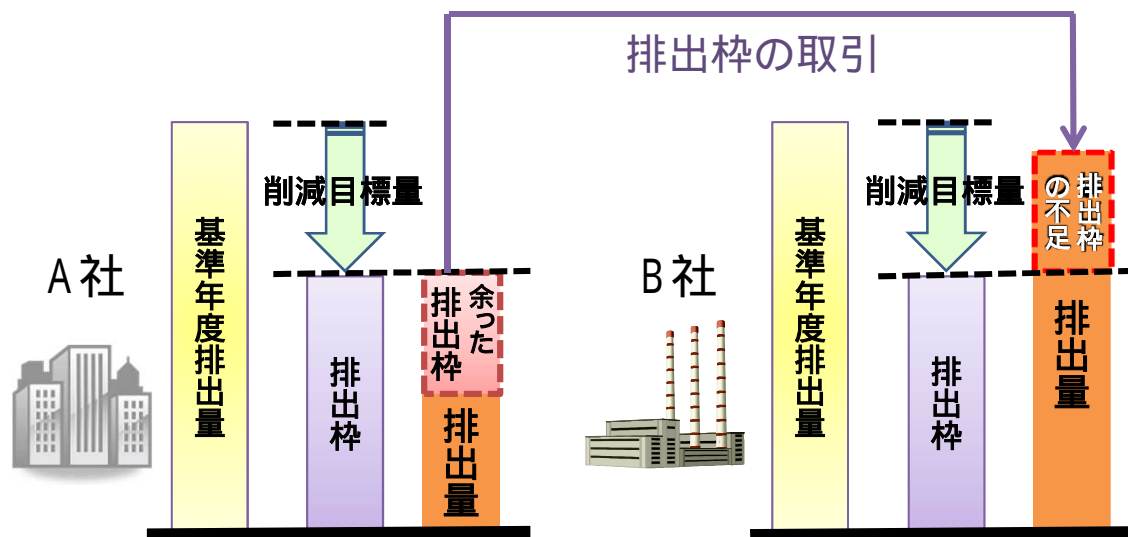
ASSET事業第2期(H25年度)の実績

第2期(H25年度)は**50事業者**が参加。50者合計で基準年度排出量(過去3年間の排出量平均) **149,015t-CO₂**に対し、削減目標量**19,287t-CO₂**(削減率約**12.9%**)を掲げ、削減目標年度(H26年度)のCO₂排出削減に取り組んだ。その結果、全体として合計**12,865t-CO₂ / 年**(削減率約**8.6%**)の削減を達成。

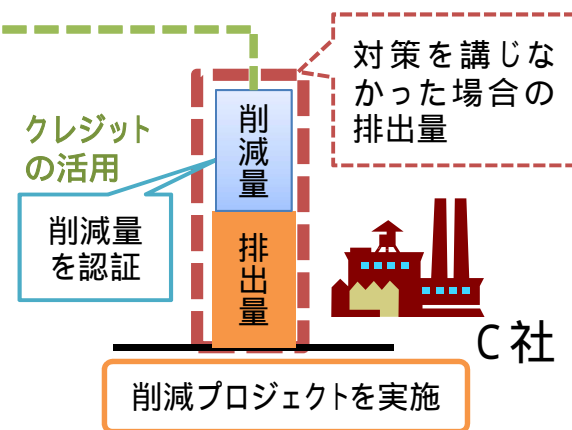
目標量に満たなかった者は排出量取引・外部クレジット活用により、削減目標量を達成。**→全50者が削減義務遵守**
1t-CO₂あたり19,284円の費用で削減。(総事業費約**35.07億円**、法定耐用年数分削減量**181,903t-CO₂**)

総事業費は事業者が事業に要した費用。削減目標年度の実績が法定耐用年数分続くと想定。総事業費3,507,777,600円 ÷ 削減量181,903t-CO₂ = 19,284円/t-CO₂
50事業者毎の事業概要はASSETウェブサイト(<http://www.asset.go.jp/info/h25>)をご参照ください。

排出量取引イメージ(ASSET事業参加者間で取引)



外部クレジット活用イメージ(その他の事業者から調達)



第2期は上記50事業者の他に取引参加者 3者を採択。取引参加者を含む参加事業者間で、**30件超、約6,000t-CO₂**の排出枠取引が行われた。

排出枠の取引を目的としてASSET事業に参加する事業者。補助金の交付は行われない。

ASSET事業参加のメリット

補助金により設備投資コストを抑えて高効率設備・機器に更新できることに加え、排出削減・省エネに対する意識向上により、**エネルギーコスト削減**も期待できる。また、**排出量算定のノウハウ蓄積**や社内意識の醸成を図ることができる。

事例紹介 ~ 事業所A (宿泊業) ~

基準年排出量(3年平均) : 3,655t-CO2

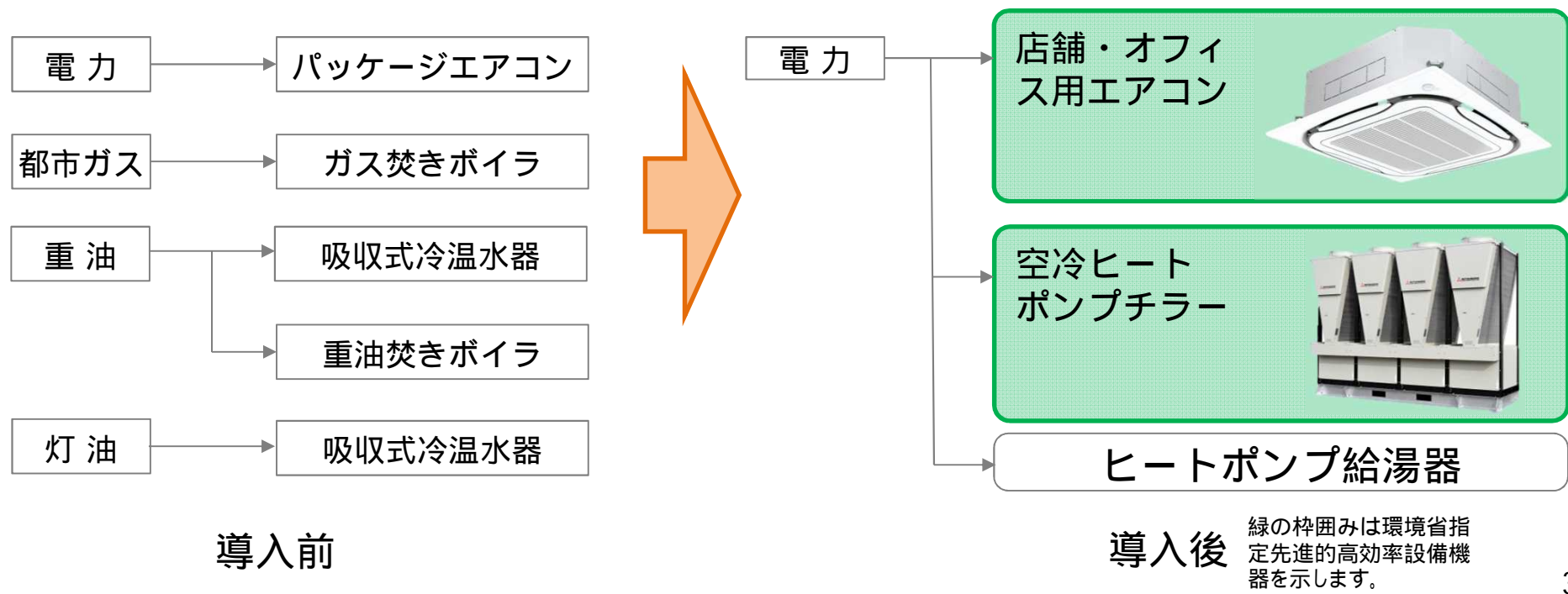
削減量実績 : 1,380t-CO2 (38%削減 : 目標より100t-CO2以上の削減を達成)

【設備更新】

空調・熱源機器としてパッケージエアコン、ガスボイラ、重油ボイラ、吸収式冷温水器を使用していたが、ASSET事業で高効率パッケージエアコン、空冷ヒートポンプチリングユニット、ヒートポンプ給湯器を導入し、空調・熱源機器を全て電化(調理器具のみ都市ガスを引き続き利用)。

【運用改善】

空調や照明の過剰な稼働抑制のため空調の適正温度管理・機器の定期的な点検を実施。



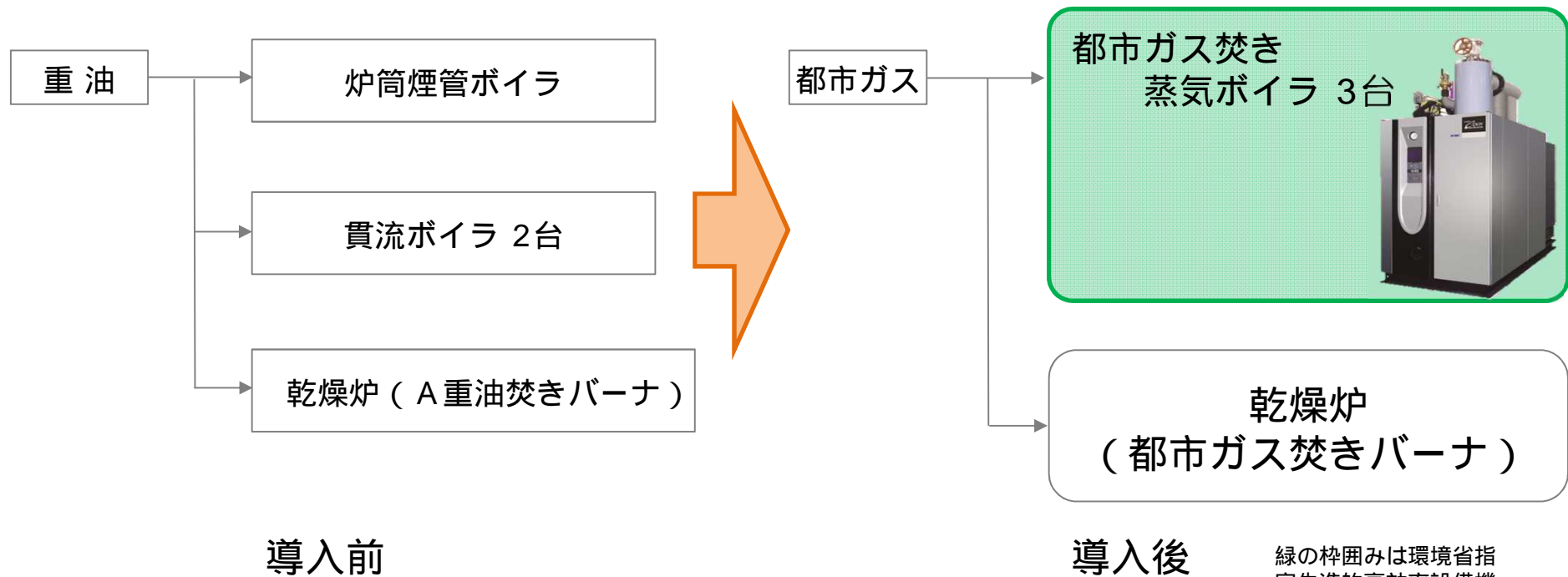
事例紹介 ~ 工場B ~

基準年排出量 (3年平均) : 1,410t-CO₂

削減量実績 : 396t-CO₂ (28%削減 : 目標より40t-CO₂以上の削減を達成)

【設備更新】

- ・A重油焚きのボイラ・乾燥炉を使用していましたが、ASSET事業で都市ガス焚きボイラと乾燥炉用ガスバーナを導入し、機器の高効率化を図るとともに燃料転換を実施
- ・ASSET事業とは別に照明のLED化、ガスの脱臭装置導入



緑の枠囲みは環境省指定先進的高効率設備機器を示します。

事例紹介 ~ 工場C ~

基準年排出量(3年平均) : 2,819t-CO2

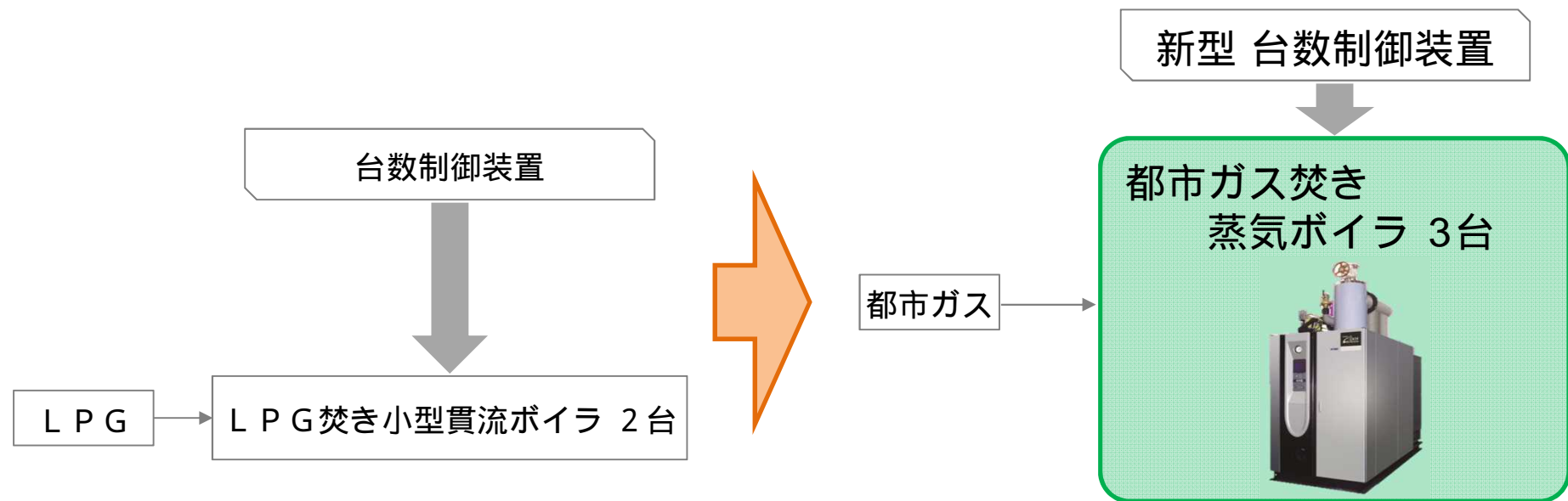
削減量実績 : 832t-CO2 (30%削減 : 目標より450t-CO2以上の削減を達成)

【設備更新】

LPG焚きのボイラを使用していましたが、ASSET事業で高効率都市ガス焚きボイラを導入し、機器の高効率化を図るとともに燃料転換を実施

【運用改善】

ボイラの蒸気圧力管理の見直しを行いマニュアルを作成することや、担当者会議を実施し、環境取組について事業所内で周知に取り組む

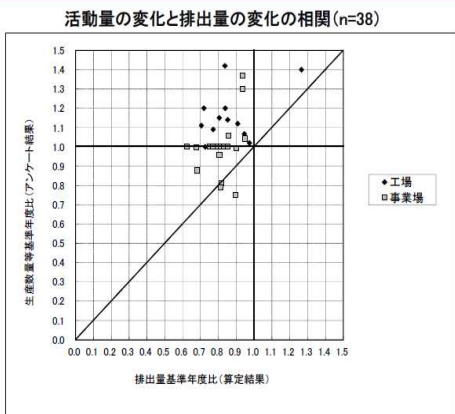


緑の枠囲みは環境省指定先進的高効率設備機器を示します。

参加者アンケート

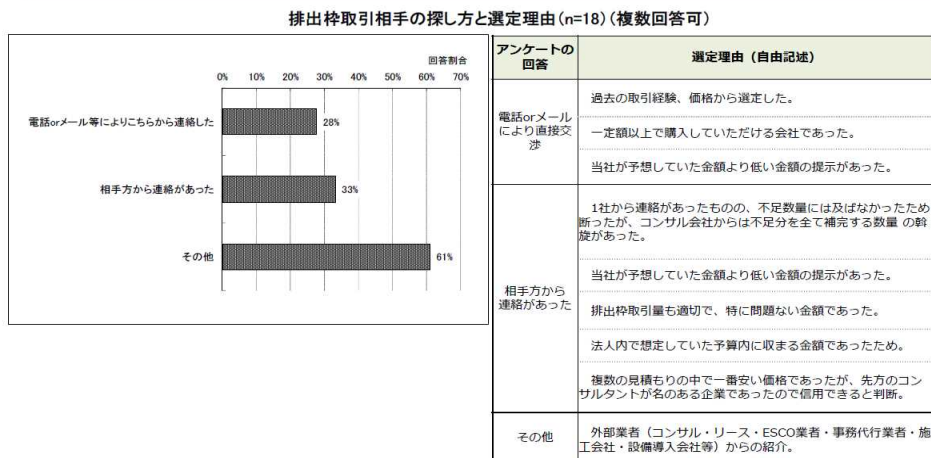
活動量の変化と排出量の変化の相関

✓削減目標年度の排出量と生産数量等※の対基準年度比をグラフにプロットすると、生産数量が増加している(対基準年度比が1以上)場合も、排出量は減少している(対基準年度比が1未満)参加者が多いことが分かる。これは生産活動が増えても地球温暖化対策を推進することで排出量を削減できることを意味する。
 ※生産数量等:工場は生産量、生産金額、事業場は営業時間、稼働率、売上高等、エネルギー使用量と密接な関係を持つ値としてアンケートにおいて回答があった指標。



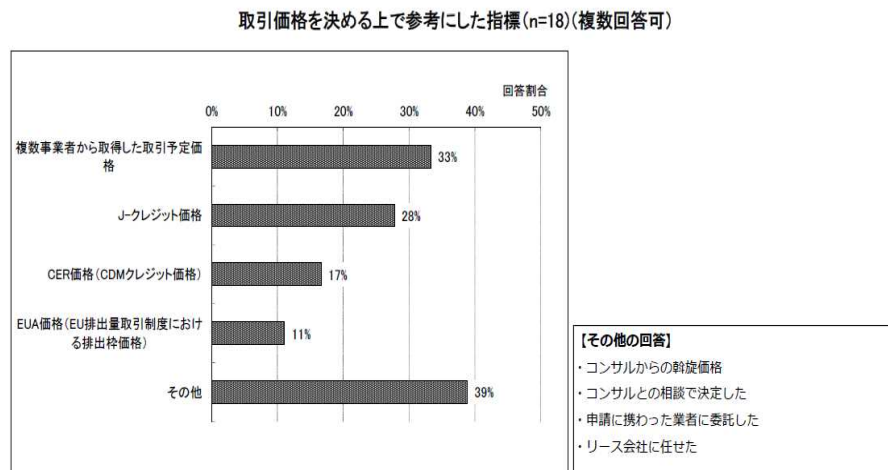
排出枠取引の詳細②

✓取引の連絡を自ら行った参加者と、相手から連絡を受けた参加者はほぼ同数であった。
 ✓その他の選定理由として、コンサル・リース・事務代行社等の外部業者から打診を受けて取引を行ったという回答が挙げられている。



排出枠取引の詳細①

✓排出枠取引の価格決定にあたって、複数参加者から取得した価格を参考にした参加者とコンサルに任せられた参加者がそれぞれ同程度存在する。
 ✓一方でJ-クレジット価格やCER価格を参考にした参加者もいた。



ASSET事業参加のメリット

✓ほぼ全ての参加者が、補助金を活用して設備投資コストの抑制を実現できたことを挙げている。
 ✓排出量削減そのものや、社内の省エネ意識向上、知見の習得を挙げた参加者も多い。

